

岐阜県における廃棄物の現状について

1 一般廃棄物の現状（し尿を除く）

（1）排出量・再生利用量・最終処分量の推移

- 一般廃棄物の排出量は、2018年（平成30年）度以降、減少している。
- 再生利用量（率）については、減少傾向にあり、再生利用が進んでいない。
- 最終処分量は、2018年（平成30年）度以降、緩やかに減少している。

(単位：千トン)

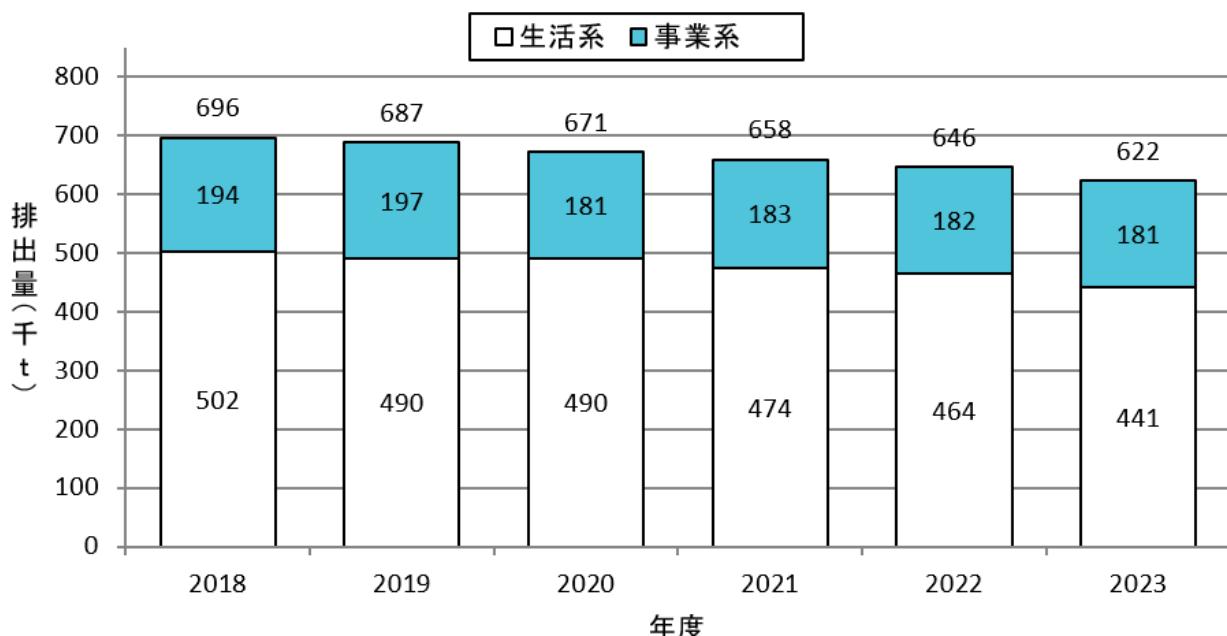
項目\年度	2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	増減 (H30→R5)	2025 (目標)
排 出 量	696	687	671	658	646	622	▲74	608
うち民間回収以外	652	653	634	626	611	587	▲65	-
うち民間回収分（※）	44	34	37	32	35	35	▲9	-
再 生 利 用 量 (率)	162 (23.2%)	146 (21.2%)	141 (21.0%)	134 (20.3%)	138 (21.3%)	135 (21.7%)	▲27 (▲1.5pt)	170 (28%)
最 終 処 分 量	50	49	47	46	46	45	▲5	42

(出典：県廃棄物対策課調べ、一般廃棄物処理事業実態調査)

※民間回収分：資源回収ステーションでの古紙、スーパーにおけるペットボトル・食品トレイ・牛乳等紙パック

（2）生活系ごみと事業系ごみの割合等について

- 一般廃棄物の排出量における事業系ごみは、一時増加に転じた年度はあるものの、生活系ごみと事業系ごみは、2018年（平成30年）度に比べ、着実に減少している。
- 依然として、生活系のごみが、事業系ごみに比べ、多くを占めており、今後も排出抑制を促進していく必要がある。

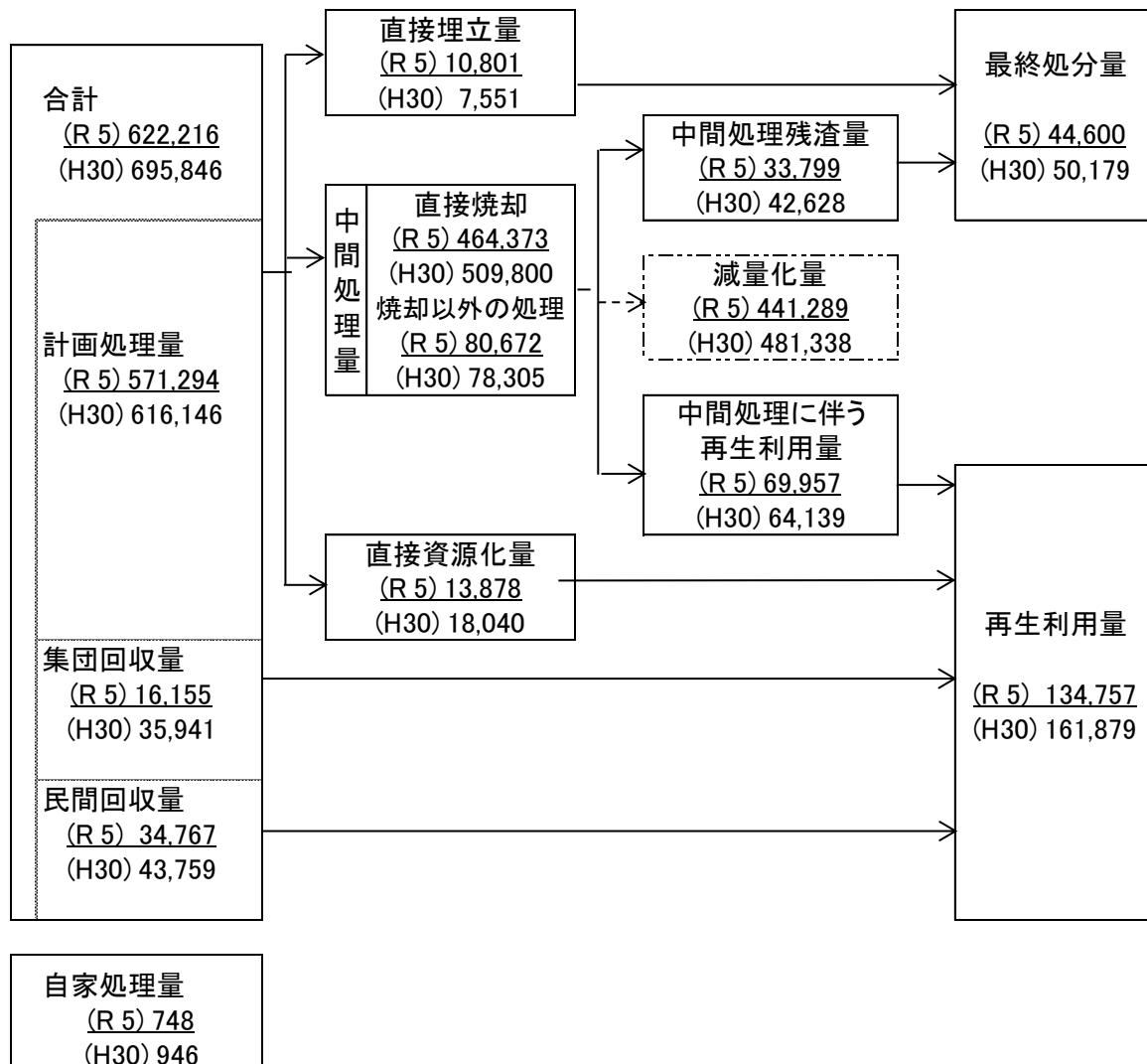


(出典：県廃棄物対策課調べ、一般廃棄物処理事業実態調査)

(3) 一般廃棄物の全県処理状況

- 排出量の減少に伴い、計画処理量・集団回収量ともに減少している。
- 処理施設における中間処理に伴う再生利用量は、増加しているが、直接資源化量、集団回収量とも減少している。
- 最終処分量は減少しているが、再生利用量も減っている。

(単位：トン)



(出典：県廃棄物対策課調べ、一般廃棄物処理事業実態調査)

*直接埋立量：中間処理を経ずに、直接埋立処分された廃棄物の量

*直接資源化量：廃棄物が焼却・破碎・選別などの中間処理を経ることなく、そのまま再生利用された量

*中間処理残渣量：焼却や破碎などの中間処理を行った後に残る、再利用できない廃棄物の量

*集団回収量：自治町会、子ども会などの住民親睦団体が、家庭から出る古紙・缶・布類・びん等の資源を持ち寄り、自分達で契約した回収業者に引き渡す自主的な資源リサイクル活動

(4) 項目ごとの主要な要因

項目	増減の主要な要因
排出量	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少による影響 (2018年度：2,005,181人 →2023年度：1,939,480人(▲65,701人)) ○生活系ごみの減少 (2018年度：458千トン →2023年度：406千トン(▲52千トン)) ○1人1日当たりのごみ排出量の減少に伴う減少 (2018年度：891g →2023年度：828g(▲63g))
再生利用量	<ul style="list-style-type: none"> ○排出量の減少に伴う減少 ○集団回収量の減少 (2018年度：36千トン →2023年度：16千トン(▲20千トン)) ○直接資源化量の減少 (2018年度：18千トン →2023年度：14千トン(▲4千トン)) ○中間処理に伴う再生利用量の増加 (2018年度：64千トン →2023年度：70千トン(+6千トン))
再生利用率	<ul style="list-style-type: none"> ○排出量の減少に伴う減少 ○集団回収量の減少 (2018年度：36千トン →2023年度：16千トン(▲20千トン))
最終処分量	<ul style="list-style-type: none"> ○排出量の減少に伴う減少 ○中間処理残渣量の減少 (2018年度：43千トン →2023年度：34千トン(▲9千トン))

(出典：一般廃棄物処理事業実態調査)

(5) 現状の評価

- ・一般廃棄物の排出量や最終処分量は、減少している。
- ・一方、再生利用量（率）は、伸び悩んでいる状況であり、さらなる再生利用を推進する必要がある。
- ・分別の徹底や、資源化につながる新たな取組みを進めるなど、循環型社会の形成に向けた取組みが必要。

→引き続き一般廃棄物の減量化に取り組むとともに、再生利用のさらなる推進が必要

2 産業廃棄物の現状

(1) 排出量・再生利用量・最終処分量の推移（農業系を除く）

- 産業廃棄物の排出量は、減少傾向である。
- 再生利用量（率）は、増加傾向にあり、再生利用が進んでいる。
- 最終処分量は、排出量に伴い減少傾向にある。

(単位：千トン)

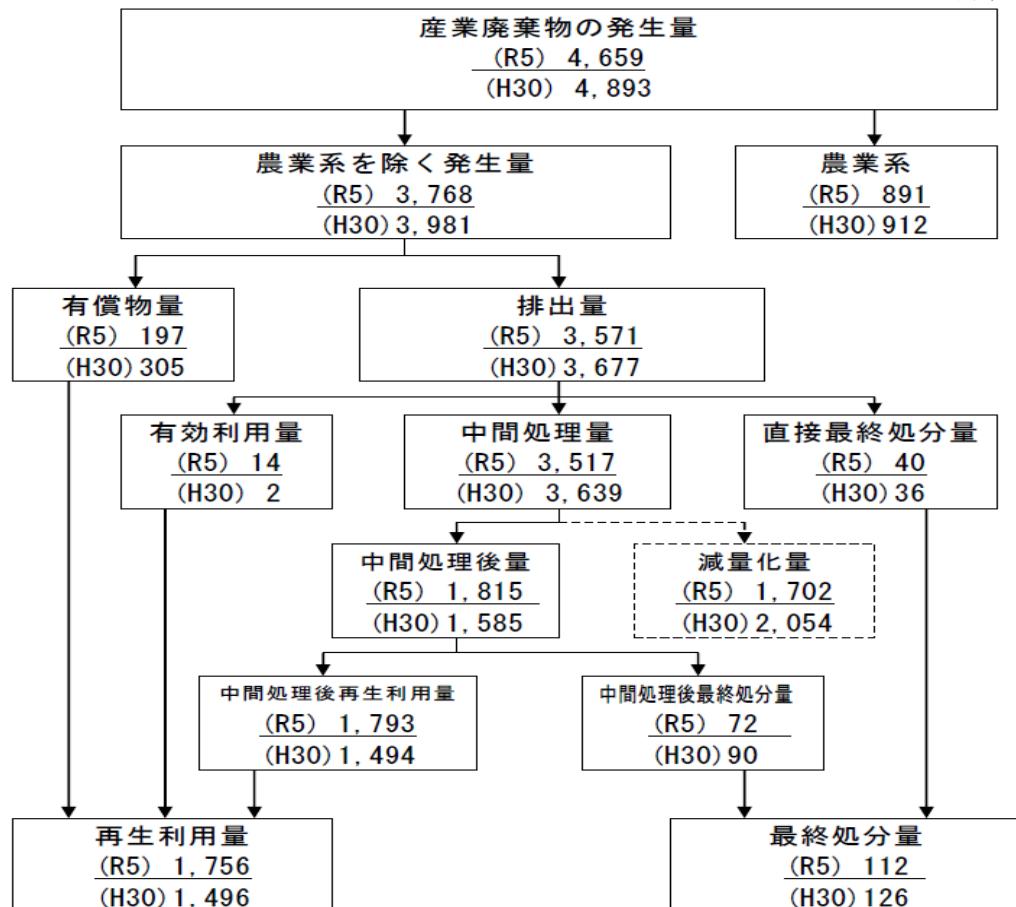
年 度 項 目	2018 (H30)	2023 (R5)	増減 (2018→2023)	2025 (目標)
排 出 量	3,677	3,571	▲106	3,677
再生利用量（率）	1,496(40.6%)	1,756(49.1%)	+260(+8.5pt)	2,059(56%)
最 終 処 分 量	126	113	▲13	105

(出典：令和元年度、令和6年度産業廃棄物処理動向調査)

(2) 産業廃棄物の全県処理状況

- 産業廃棄物発生量（全体）は、農業系廃棄物の減少により2018年度（平成30年）度から減少した。
- 再生利用量は、中間処理における再生利用量が増加したことに伴い、増加した。
- 最終処分量は、2018年度（平成30年）度から減少した。

(単位：千トン)



(出典：令和元年度、令和6年度産業廃棄物処理動向調査)

※有償物：産業廃棄物の中で市場価値があり、有償で取引される物の量

※直接最終処分量：中間処理を経ずに、直接埋立処分された廃棄物の量

※有効利用量：産業廃棄物の中でリサイクルや再利用が可能な物質の量

※最終処分量：最終的に埋め立てられた量

(3) 項目ごとの主要な要因

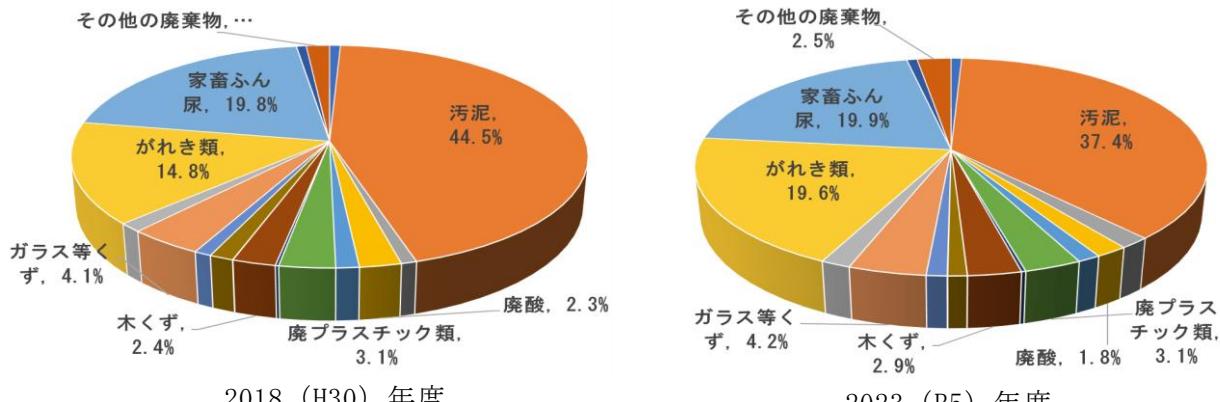
項目	増減の主要な要因
排出量	<ul style="list-style-type: none"> ○汚泥の排出量が減少 (2018年度：2,040千トン →2023年度：1,669千トン(▲371千トン)) ○製造業の排出量が減少 (2018年度：1,722千トン →2023年度：1,422千トン(▲299千トン)) ○情報通信業の排出量が減少 (2018年度：2千トン →2023年度：0.092千トン(▲1.9千トン))
再生利用量	<ul style="list-style-type: none"> ○製造業に係る再生利用量の増加 (2018年度：545千トン →2023年度：597千トン(+52千トン)) ○建設業に係る再生利用量の増加 (2018年度：829千トン →2023年度：1,064千トン(+235千トン)) ○がれき類の増加 (2018年度：663千トン →2023年度：873千トン(+210千トン)) ○廃油の増加 (2018年度：17千トン →2023年度：54千トン(+37千トン))
再生利用率	<ul style="list-style-type: none"> ○製造業に係る再生利用率の増加 (2018年度：31.6% →2023年度：41.9%(+10.3%)) ○建設業に係る再生利用率の増加 (2018年度：89.0% →2023年度：94.9%(+5.9%)) ○サービス業に係る再生利用率の増加 (2018年度：38.4% →2023年度：70.7%(+32.3%))
最終処分量	<ul style="list-style-type: none"> ○製造業に係る最終処分量の減少 (2018年度：77千トン →2023年度：55千トン(▲22千トン)) ○建設業に係る最終処分量(がれき類)の減少 (2018年度：12千トン →2023年度：3千トン(▲8千トン)) ○汚泥及び廃プラスチック類の減少 (2018年度：53千トン →2023年度：39千トン(▲14千トン))

(出典：令和元年度、令和6年度産業廃棄物処理動向調査)

(4) 種類別の排出量

- 種類別の排出量は、汚泥が 1,669 千トン（37.4%）で最も多く、次いで、家畜ふん尿の 890 千トン（19.9%）、がれき類 876 千トン（19.6%）となっている。
- 前回調査を行った 2018 年(平成 30 年)度に比べて、汚泥の構成割合が減少し、廃油や木くず、がれき類が増加している。

【産業廃棄物種類別排出量】



(単位：トン)

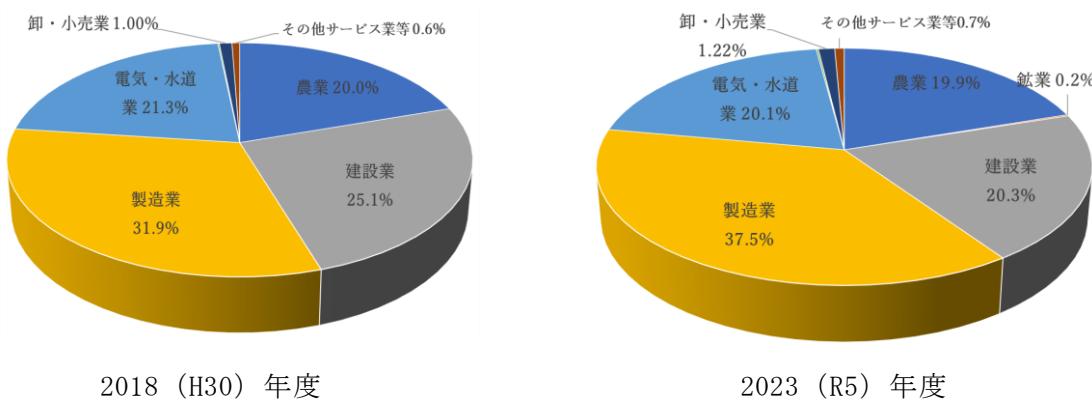
廃棄物の種類	2018 (H30) 年度		2023 (R5) 年度		
	排出量	構成比	排出量	構成比	
燃え殻	35,518	0.8%	34,396	0.8%	
汚泥	有機性汚泥	1,818,478	39.6%	1,514,751	33.9%
	無機性汚泥	221,932	4.8%	154,747	3.5%
廃油	39,134	0.9%	74,583	1.7%	
廃酸	105,613	2.3%	78,521	1.8%	
廃アルカリ	58,444	1.3%	55,812	1.3%	
廃プラスチック類	141,015	3.1%	139,167	3.1%	
紙くず	8,509	0.2%	10,518	0.2%	
木くず	109,546	2.4%	129,834	2.9%	
繊維くず	906	0.0%	508	0.0%	
動植物性残さ	60,396	1.3%	46,401	1.0%	
動物系固形不要物	0	0.0%	915	0.0%	
ゴムくず	205	0.0%	186	0.0%	
金属くず	43,475	0.9%	50,055	1.1%	
ガラス等くず	188,489	4.1%	188,967	4.2%	
鉱さい	59,164	1.3%	72,057	1.6%	
がれき類	678,897	14.8%	875,722	19.6%	
家畜ふん尿	910,106	19.8%	890,277	19.9%	
家畜の死体	721	0.0%	635	0.0%	
ばいじん(ダスト類)	31,842	0.7%	33,605	0.8%	
その他の廃棄物	76,196	1.7%	110,915	2.5%	
合計	4,588,584	100%	4,462,573	100.0%	
(農業系廃棄物を除く)	3,676,552		3,571,225		

※端数処理の関係で、合計は一致しない。

(5) 業種別の排出量

- 2023 年（令和 5 年）度の産業廃棄物の排出量を業種別に見ると、最も排出量が多いのが製造業で 1,422 千トン（31.9%）、次いで建設業の 1,121 千トン（25.1%）、農業の 891 千トン（20.0%）、電気・水道業の 951 千トン（21.3%）となっている。
- 前回調査を行った 2018 年（平成 30 年）度に比べ、主に、建設業や電気・水道業の構成割合が増加し、製造業（特に、パルプ・紙・紙加工品製造業）や卸・小売業が減少している。

【産業廃棄物業種別排出量】



（単位：トン）

業種	年度		2018 (H30) 年度		2023 (R5) 年度	
	排出量	構成比	排出量	構成比	排出量	構成比
農業	912,302	19.9%	891,348	20.0%	891,348	20.0%
鉱業	8,450	0.2%	253	0.0%	253	0.0%
建設業	930,731	20.3%	1,120,546	25.1%	1,120,546	25.1%
製造業	1,721,750	37.5%	1,421,895	31.9%	1,421,895	31.9%
電子部品・デバイス・電子回路製造業	70,872	1.5%	125,346	2.8%	125,346	2.8%
パルプ・紙・紙加工品製造業	795,201	17.3%	574,338	12.9%	574,338	12.9%
プラスチック製品製造業	138,123	3.0%	97,093	2.2%	97,093	2.2%
化学工業	80,295	1.7%	66,025	1.5%	66,025	1.5%
窯業・土石製品製造業	263,067	5.7%	229,149	5.1%	229,149	5.1%
その他製造業	374,191	8.2%	329,944	7.4%	329,944	7.4%
電気・水道業	920,109	20.1%	951,060	21.3%	951,060	21.3%
運輸業（運輸・郵便業）	6,819	0.1%	4,961	0.1%	4,961	0.1%
卸・小売業	56,080	1.2%	44,795	1.0%	44,795	1.0%
その他サービス業等	32,612	0.7%	27,718	0.6%	27,718	0.6%
全業種合計	4,588,854	100%	4,462,573	100%	4,462,573	100%
（農業系廃棄物を除く）	3,676,552		3,571,225		3,571,225	

※端数処理の関係で、合計は一致しない。

(6) 現状の評価

- ・産業廃棄物の排出量等の主な要因は、経済活動の状況変化によるものが大きいが、その状況は業種ごとに異なるため、特に排出量が増加している業種に対しては、排出事業者への啓発等を強化して、さらなる減量化及び資源化を推進する必要がある。
- ・産業廃棄物の再生利用量・率ともに、上昇しており、事業所における取組みが相当程度進んでいると考えられる。
- ・最終処分量は、製造業に係る最終処分量の減少に伴い、減少した。

→産業廃棄物の減量化及び再生利用のさらなる推進が必要